

はじめに

科学研究について、「学際的研究」とか「異分野融合」の重要性が近年繰返し指摘されています。これは細分化され専門化されることによって急速に発展してきた科学がある種の限界に近付いてきたことの表われです。実際、生命科学・地球環境科学あるいは人文関係の科学などほとんど全ての科学の領域において、実験や観測の技術革新による複雑な対象に関する大量情報の蓄積と、情報科学やコンピュータの進歩によるデータベース技術の進歩により、一昔前とは異なった研究能力を必要とする時代を迎えていると言えましょう。この状況に正しく対処するには、分野を越えた研究組織の確立が必要ですが、世界的に見てもその努力はまだ十分には成功していません。

われわれは、「国立大学等の法人化」の機会をとらえて、これまで個別に特徴をもって独立の研究をすすめてきた、国立極地研究所・国立情報学研究所・統計数理研究所・国立遺伝学研究所の四つの大学共同利用機関が協力して、未来の学問動向を見据えた改革を志向して、情報・システム研究機構を結成しました。各研究所はそれぞれのユーザーである大学の研究者コミュニティの要望に基礎を置く研究支援活動をより高度化するとともに、分野を越えて連携することにより、生命・地球など複雑な研究対象に関する実験や観測による大量情報を産生する現場と、その情報を構造化しデータベース化して有用な知識抽出と推論を行う情報処理の現場とを直接につないで新しい研究環境の創出をめざそうとしています。この目標への具体的な第一歩として、われわれは機構法人結成の初年度（平成16年度）に機構内に「新領域融合研究センター」を設置し、地球環境・生命情報・情報基盤の3本の柱を中心に四研究所が大学等の研究者とも協力した融合プロジェクト研究および将来の芽を育てる育成融合研究を開始しました。幸いにこの努力が認められて、平成17年度には特別教育研究経費の予算措置もなされ、本格的な活動を開始することができました。まだ研究活動を始めたばかりですが、既に研究所間での活発な研究協力が展開され始めており、法人化以前にはなかった新しい研究プロジェクトがスタートしました。また、若手研究者の泊まり込みの交流会などは予想を超えた好評を得ており、少なくとも順調に立上ったと考えています。今後は具体的な成果をあげて、新領域の創造を目指して頑張りたいと思いますので、皆様からのご批判とご支援をよろしくお願いします。

新領域融合研究センター長

情報・システム研究機構長

堀 田 凱 樹